



体育祭 ソーシャルディスタンスにご協力を



<昼休み3年「総舞祭」練習風景>

5月29日(土)に体育祭代替行事を行います。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、参観者の人数制限をさせていただきます。大変申し訳ありませんが、ご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

当日来校される場合は、マスクの着用、手指の消毒、ソーシャルディスタンスの確保を、くれぐれもお願いいたします。また、次の4点を、必ず守っていただきますよう重ねてお願い申し上げます。

- 一人一枚の「入場券」を持参してください。名前と体温の記入も忘れずをお願いします。
- 8:30以降に、一旦出て再度入場する場合は、出る際に受付で「再入場券」をもらってください。
- 再入場ができるのは、校門側入り口のみです。

○ 「保護者参観ゾーン」を設定します。その中で距離を確保しながら、参観や撮影を行ってください。なお、5月19日付け文書でお知らせしたように、入場数制限、新型コロナウイルス感染症不安、仕事に係る行動制限等により参観できない方は、試験的なビデオ配信やDVD・ブルーレイの活用をご検討ください。DVD・ブルーレイについては、まだ追加注文ができます。

子どもを育てるということ

子育ては悩み多きものです。そして、子育てに正解はないと言われる。すばらしい実践を読んで、同じことをやってみても、同じような結果は得られません。対象となる子どもが違えば、実践している人間も違えば、周囲の環境も違うからです。花を自分の庭に植え替えるときは、その花が咲いている土ごと植え替えないと、しおれてしまうのに似ています。花に目を奪われがちですが、根っこを支える土が大切なのです。子育てにおいて、土に当たるものが、子育てに対する考え方、心構えではないでしょうか。次の文章は、5年前に亡くなられた渡辺和子さん(元ノートルダム清心学園理事長)の対談から抜粋したものです。保護者、教師に対して、子どもを育てるといふことはどういうことか、その考え方、心構えを端的に示してくれています。

★ 私は「置かれた場所で咲きなさい」という言葉を入学式で贈ります。「置かれた所こそが、今のあなたの居場所です。ここで咲いてごらんください。私たちがそのお手伝いをしますからね」と。

「咲く」のは本人ですが、草花が育つのに日様が必要のように、周囲の環境もとても重要です。子どもたちは、「認めてくれる」「かまってくれる」「ほめてくれる」ことをとても喜び、そうすることで伸びます。ただし、おだてたり、お世辞でほめたりはしません。できていないことに対しては、厳しく注意します。言葉遣いやお辞儀の仕方など、間違っていたらその場でやり直しさせます。社会に出てから困るのは、その子なのですから。

★ 先生方には、「尊敬できる存在」であってほしいと思います。子どもたちが次の環境、新しい境遇の中でしっかり生きていけるように、叱るべき時は叱ることが肝心です。本気でその子のことを大切に考えての言動であれば、必ず心に響くはずですよ。

★ 保護者の方には、「今」子どもを喜ばせることばかりに目を向けるのではなく、「将来」の幸せにつながるような価値観を伝えることを大事にしたいですね。子どもに価値観を伝えるのに言葉はいりません。ご自身が誠実に努力して生きる姿を見せるだけでいいのです。子どもは、親や教師の「いう通り」ではなく、「する通り」になっていくものです。